



健康一口メモ

仙台市医師会
広報委員
氏家 裕明

収束への出口が一向に見えない新型コロナウイルス感染症が、全世界で猛威をふるっています。欧米ほどではありませんが、日本でも連日数百人の新規感染者が報告されています。そんな状況の中、「機能性ディスペプシア」の患者さんが増えているように感じています。

「機能性ディスペプシア」は、あまり聞いたことがない病名だと思いますが、症状の原因となる明らかな異常が認められないにもかかわらず、胃もたれ、上腹部膨満感などの腹部不快症状が慢性的にみられる病気で、2013年に正式に認められました。腹部不快症状を主訴に医療機関を受診した患者さんの約50%が本疾患であるとも報告されています。

「機能性ディスペプシア」の原因は、胃の運動障害、胃十二指腸等の内臓知覚過敏、心理的ストレス、胃酸がメインですが、喫煙、睡眠不足、さらに、高脂肪食、刺激物の摂取、アルコールなどの食生活の乱れも関係しており、さまざまな要因が複雑に絡み合っています。主な症状は、食後の胃もたれ、早期膨満感(少しの食事で

機能性ディスペプシア

おなかがいっぱいと感じる)、上腹部の痛み等、いわゆる、腹部不定愁訴と言われる症状です。

検査、診断では、自覚症状について詳しく問診することが大事です。どのような症状が、いつ頃から、どのくらいの頻度で、どの位持続するののか、食事との関係等を確認します。また、その症状の発現時期に肉体的、精神的なストレスがなかったかの確認も大事です。その上で、胃がんあるいは胃潰瘍などの病気の有無を確認する意味で、胃内視鏡検査を行います。場合によっては、腹部エコーやCT検査を追加します。

治療については、胃酸分泌抑制剤、消化管運動機能改善剤が第一選択となります。場合によって精神安定剤、漢方薬なども使用します。現在のコロナ禍の状況においては、仕事を含め生活環境が大きく変わってしまいました。収束に伴って以前の生活に戻ることによって、「機能性ディスペプシア」の患者さんが少し減るかもしれません。

【氏家クリニック/若林区二本杉町】

胃に異常が見つからないのに...



[2020年11月9日 執筆]

うれしいこと、 一緒に。

杜の都信用金庫は
「地域社会発展のために設立された地元の信用金庫」
としての原点に立ち返り、
お客さまの夢の実現のお手伝いができるよう、
“うれしいこと、一緒に。”を合言葉に、
より良い金融サービスの提供に努めてまいります。

Shinking with you.



杜の都信用金庫

